

題 目 社会的分配と不確実性：Eye tracker による情報探索過程の検討

氏 名 上田 麻亜弥

指導教官 亀田 達也

富の分配に関する問題と、不確実性のある状況、例えばギャンブルにおける選択に関する問題はどちらも人々の関心を集めてきた。これら 2 つの問題は一見関連がないように思われるが、構造的によく似ていることが指摘されてきた (Vickrey, 1954; Harsanyi, 1953; Amiel & Cowell, 1999; Traub, Seidl, & Schmidt, 2009)。政治哲学者の Rawls は『正義論 (A Theory of Justice, 1971)』の中で、分配とギャンブルを似た枠組みで捉えて規範論的な立場から議論を展開している。また、分配課題とギャンブル課題を比較した実験研究では、これら 2 課題間で選択の結果が連動していることが報告されている (犬飼・黒阪・豊川・佐々木・亀田, 2010)。では、これらの連動はいかにして生み出されているのだろうか。

荒井 (2011) は Mouselab を用いて選択の過程について調べており、2 課題の探索過程に連動が見られることがわかっている。しかし、Mouselab では選択肢内の要素を積極的に探索する過程は測定できるが、既に提示されている情報を探索する過程は測定できない。

そこで、本研究では Eye tracker を用いて視線による情報探索の過程を調べた。これを用いた過去の研究には Alieli, Ami, & Rubinstein (2009) があり、分配課題などにおいてリスクのある状況では、参加者は自分の取り分だけではなく他者の取り分との差を比較して選択行動を行うことを明らかにした。この研究では自他を当事者とした分配行動について取り上げているが、他者のみを当事者とした分配行動との関連はいかなるものであろうか。

こうした背景から、視線による探索過程でも分配状況での選好とギャンブル状況での選好との間に関連・相違が見られるか、そして自他を受け手とする分配状況において、分配状況やギャンブル状況での選好との間にどのような関連が見られるかを検討するために実験を行った。

実験の結果、選択結果・探索過程双方で、全ての状況下での選好にそれぞれ連動が見られた。他者を当事者とした分配状況には他の 2 課題が持つリスク要素がないにも関わらず、ギャンブル状況との間に連動が見られた。しかし、ギャンブル状況の影響を取り除いたところ、2 つの分配状況間の連動は消えた。この結果は、分配行動においてリスクとは独立した別の要素が存在することを示唆する。もし、分配行動において例えば fairness への選好を人々が持っているのだとすれば、fairness への選好は本実験課題間でどういった関連が見られるのだろうか。今後は、分配行動におけるリスク以外の要因についてより探索的な分析を行う必要があるだろう。